



# 医学部附属病院

## がんゲノム診療科

遺伝子検査を駆使して治療が困難ながんの治療法を探す

### 診療科DATA

|        |   |
|--------|---|
| 診療科長   | 池田貞勝(腫瘍センター特任講師)  |
| 担当スタッフ | 医師5人、CRC/看護師1人、認定遺伝カウンセラー1人                               |
| 対象となる方 | がんの標準治療に不耐または治療抵抗性となりそれ以上の標準治療がない方、原発不明がんまたは希少がんと診断されている方 |



左から、横堀潤子さん(CRC)、池田貞勝診療科長(内科医)、三ツ村隆弘医師(内科医)、高嶺恵理子さん(認定遺伝カウンセラー)

検査後の結果説明は、医師だけでなく、CRCや遺伝カウンセラーも同席して丁寧に行う。



ゲノムキャンサーボードと呼ばれるカンファレンスでは、担当医、放射線診断医、病理医、臨床遺伝専門医のほか、ゲノムデータ解析を行う基礎研究医も加わり、チーム医療を実現。



池田貞勝診療科長◎「東京医科歯科大学はがんゲノム医学の専門家も多く、基礎研究で高い実績を上げています。ここは、そういった研究成果を臨床に生かすための診療科でもあります」



今やがんは不治の病ではない。しかし、標準治療では効果がなくなったがんや、治療法の見つからない原発不明がんなどもある。2017年12月に開設されたがんゲノム診療科は、そのようながんに対して網羅的にがん遺伝子検査を行い、遺伝子変異ごとに個別の治療を行う。

「例えば肺がんだとしても人によって遺伝子の変異は異なり、変異によって効果が期待できる薬が変わります。ゲノム診療科はそのような治療薬を探して治療します。保険適用外の治療となりますが、できるだけ参加できる治験を探します」と話す

のは、池田貞勝診療科長。

遺伝子検査など患者さんへの対応は、看護師でもある臨床研究コーディネーター(CRC)の横堀潤子さんが行う。「検査を受けることのデメリットなども含む遺伝子検査についての説明や検査のコーディネート全般を行っています。治療法がないと診断された患者さんは不安と期待を抱いてこの診療科を受診しますので、中立的立場でしっかりと事実を伝えるよう心掛けています」。

遺伝子検査の結果、家族に遺伝する遺伝子変異が見つかった場合は、認定遺伝カウンセラーの高嶺恵理子

さんが患者さんとその家族に説明する。「遺伝はとてもセンシティブな問題ですから、患者さんと家族の関係性などをよく観察した上でどのように話すべきかを検討しています」。

患者さんたちは、いちろの望みをかけて診療科を受診してくるが、実際に有効な治療法が見つかるケースは極めて少ない。それでも一人でも多くの患者さんを救いたいと池田診療科長は話す。「私たちは目の前の患者さんを救うため、可能性はわずかでも治療法を探します。さらに治療データベースをつくり、未来の患者さんを救う研究へとつなげていきたい」。